

福島市脱炭素社会実現実行計画(素案)に関する
パブリック・コメントの結果について

1 期 間 令和5年5月25日(木)から5年6月26日(月)まで

2 意見提出者及び件数 2名(3件)

3 意見の内訳

(1) 第3章・第4章 1件

(2) 第4章 1件

(3) その他 1件

4 意見の概要と意見に対する考え方

No.	章	該当する項目	意見の概要	意見に対する考え方
1	第3章 第4章	温室効果ガス 排出量・吸収 量 削減目標	他部門の温室効果ガス削減が進んでいるが、輸送部門の削減が進まない原因把握できていますか。 また、現在の施策はそれを踏まえた削減対策となっていますか。	運輸部門につきましては、温室効果ガス排出量の97%が自動車由来であり、ガソリン等の化石燃料の消費が大きいことが主な原因であることから、自家用車のEV化やインフラ(充電設備)の整備が必要と考えます。 また、自動車の使用自体を減らす取組の一つとして、徒歩や自転車利用を促進するための環境整備を進め、あわせて公共交通機関の利用者数の維持を図る必要があります。 現状把握・分析を行い、実態に即した予算措置を講じながら、温室効果ガス排出量の削減に努めてまいります。
2	第4章	削減目標	家庭における温室効果ガス削減の施策として、既存住宅の改修による高断熱化、ZEH(ネットエネルギーハウス)の対策があるが、行政(国県も含め)からの費用支援はどれだけのものを想定していますか。この対策における数値目標を実現するためには、行政・その他第三者による費用支援がどの程度必要と試算していますか。	断熱化やZEHにも程度が様々であり、費用支援の程度を試算するのは困難ではありますが、現状把握・分析を行い、実態に即した予算措置を講じながら、温室効果ガス排出量の削減に努めてまいります。 なお、国・県の制度も含め、活用可能な補助制度について、積極的に情報発信してまいります。

3	—	その他	<p>福島駅から、市郊外の主な観光、史跡、商業施設を循環する定期路線バスを水素電池またハイブリット車で平日と週末休日で運行ダイヤを変えながら運営し、個人利用の乗用車を減らす。観光事業者やスポンサーと提携し、利用者特典を付けて、促進していく。</p> <p>他方で大型駐車場の所有者には、太陽光発電や再生可能エネルギーの設置、緑化を義務付ける事で、循環バスへの協力なり駐車場設備なりで脱炭素化に取り組むことにする。</p>	<p>ご意見につきましては、今後の施策の検討にあたっての参考とさせていただきます。</p>
---	---	-----	--	---